

神の御子イエス ヘブル 1:1-4

1. 神は、むかし先祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られましたが、この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。(1:1-2)
 - a. 父なる神は万物が創造されて以来、その民に語りかけておられる。
 - b. イエスが肉体をもってこの世に来られる以前は神はいろいろな方法で、特に預言者たちを通してその民に語られた。神の民は神が語りかける者として造られ、聖書を通して見られるように彼らは神の啓示に応答する者であった。
 - c. この時代(終わりの時と言われている)の特徴は、肉体をとられた神が地上に来られ、当時の人々に文字通り直接語られた、ということである。
 - d. イエスがこの地上を歩まれた間は、神の声を聞いた人たちはその意味がわからなくても直接聞くことができた。福音書の中にはイエスの弟子たちがその教えについて質問している場面が見られる。
 - e. 現在イエスは神の右に座しておられるので、今の私たちには初代の弟子たちと同じ特権に与ることはできないが、今の時代でも私たちは聖霊の助けにより、やはり御子イエスを通して父なる神とコミュニケーションをとることができる。神の民は神の声を聞き、従っていくという性質を持つ。

2. 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。また、罪のきよめを成し遂げて、すぐれて高い所の大能者の右の座に着かれました。(1:3)
 - a. イエスが神の本質の完全な現れでありまたご自身が神であられたように、この地上においては教会もまたイエスの御姿を映し出し、神の本質を現わすものとならなければならない。
 - b. 御子は神の栄光(光、美、威厳)を現わしているが、その御性質も神と全く同じである。イエスは外的な要素だけでなく内側のご性質も完全であり、素晴らしい足跡を残された。
 - c. 教会も地の光(神の栄光を現す)、地の塩(召された場所で永遠の足跡を残す)となるように召されている。
 - d. 御子はまた王/主(その力あるみ言葉で全てを治める)であり、祭司(世の罪をきよめる)である。
 - e. 教会も同じくこの地上では祭司となり王となるという役目を担っている。私たちはこの地上においてイエスの名によって天の権威をとりなし、用いることができる。

3. 御子は、御使いたちよりもさらにすぐれた御名を相続されたように、それだけ御使いよりもまさるものとなりました。(1:4)
 - a. イエスはこの世に神を示すため肉体をとって来られたが、他の預言者や御使いとは異なる。イエスはさらにすぐれた御名を相続され、御使いよりもまさるものとなられた。
 - b. ここでは相続という言葉が使われているが、それは父なる神がいなくなってイエスが引き継ぐということではない。むしろそれは父なる神と御子の両者が御国の権威を所有するという意味である。
 - c. 驚くべきことに私たちもその相続に含まれている。それは単に富や資産を受けるということではなくすべての創造物に対する支配を神と共有することである。私たちは永遠のいのち、この世界、そして天の御国を受け継ぐのである。